

生物多様性の現状を評価し、将来の変化予測に欠かせない 植生・土地利用 基礎データの無償提供

国立環境研究所 生物多様性領域 山野博哉 領域長

研究内容

Biodiversity Web Mapping System 生物多様性データ可視化ツール



植生や土地利用の基礎データは、生物多様性の現状評価や将来の変化予測に欠かせません。国立環境研究所の生物多様性データ可視化ツール（BioWM）サイトでは、GIS用メッシュデータの無償提供を行っています。

1/5/10km 提供中 <https://www.nies.go.jp/biology/data/lu.html>

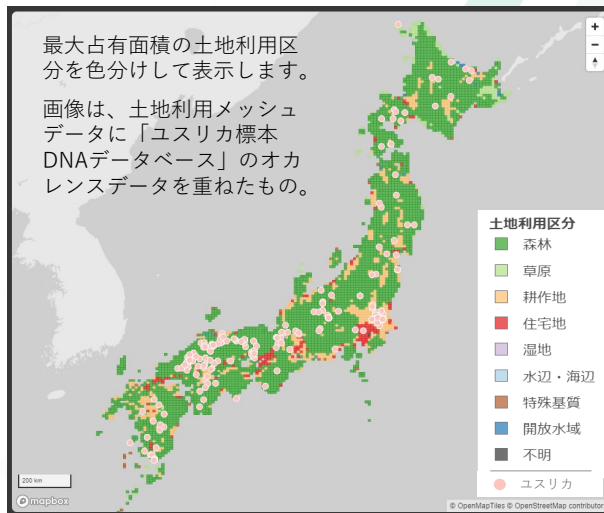
日本全国標準土地利用メッシュデータ

- 環境省自然環境保全基礎調査の植生データを基に、50細分類（二次林と自然林など）で区分した全国土地利用メッシュデータ

1/10km 提供中 <https://www.nies.go.jp/biology/data/si.html>

日本全国さとやま指数メッシュデータ

- 農地とその周辺にどれくらい多様な土地利用が含まれているかを評価する指標「さとやま指数」を基にした全国スケールのメッシュデータ



<http://www.nies.go.jp/biowm/map/biodiv.html>

応用例

日本全国標準土地利用メッシュデータ



【建設機器メーカー様】

生物多様性保全活動を進める際に、各工場のポテンシャル評価の一環として周辺土地利用状況の見える化に利用

世界農業遺産の認定申請書を作成するにあたり、生物多様性やランドスケープを説明するための基礎資料に利用



【行政担当者様】

日本全国さとやま指数メッシュデータ



【コンサル企業様】

全国の土地利用や自然・社会的特性の分布状況の把握、グリーンインフラの土地利用の要素の1つとして利用

「生態系レッドデータブック作成業務」において、地域の生態系評価指標の一つとして利用



【保全事業財団様】

セールスポイント

- ・日本全土を対象とした土地利用情報・さとやま指数のGIS用メッシュデータを無償で提供中
- ・生物の生息地評価から政策検討まで、産学官あわせて262件の活用実績（2013年度公開、2024.1現在）

研究キーワード

・ データベース ・ 土地利用 ・ 環境評価指標 ・ 生物多様性

お問合せ先

国立環境研究所 連携推進部 研究連携・支援室

〒305-8506
茨城県つくば市小野川1 6 - 2
TEL:029-850-2472 FAX:029-850-2716
MAIL: renkei_r1@nies.go.jp

国立環境研究所 生物多様性領域
データベース担当 biodiv.data@nies.go.jp
<https://www.nies.go.jp/biowm/list>

